

## 少女雑誌の部屋より



みなさんお馴染みの少女漫画雑誌『なかよし』と『りぼん』は1955年（昭和30）に誕生してから今年で70年を迎えました！その始まりは現在のような漫画雑誌ではなく絵物語や小説なども掲載する“少女雑誌”だったことはご存知でしょうか？9月20日よりスタートする企画展「なかよし&りぼん 70年の軌跡」に先立って、今月号ではまず『なかよし』を特集いたします。記憶に残る思い出の作品はありますか？



## 少女雑誌から漫画雑誌へ

『なかよし』は『少女クラブ』よりも下の学年層をターゲットとした妹雑誌として1955年（昭和30）1月に創刊しました（発売は1954年12月）。創刊当初は小学校4～5年生を対象としており、絵物語や小説などの読み物、漫画を中心に、ファッション、芸能記事などを掲載する総合誌のような存在でした。表紙や誌面で少女スターたちが活躍していました。

漫画では、手塚治虫の「とんから物語」「虹のとりで」のほか、『少女クラブ』で連載していた「リボンの騎士」を再連載し人気を博しました。1960年代はじめ頃までは男性漫画家を中心でしたが、1960年代半ばくらいからは赤松セツ子や牧美也子、わたなべまさこら女性漫画家が活躍するようになりました。漫画人気の高まりによって、徐々に漫画の占める割合は増えていき、1970年8月号を最後に絵物語がなくなり、少女漫画のみで構成された雑誌へと変化しました。

## 1955年～1960年代

創刊当初は巻頭に人気挿絵画家・勝山ひろしの絵による絵物語が掲載されて評判となりました。漫画作品では手塚治虫の他、山田えいじ、武内つなよし、赤塚不二夫といった男性漫画家を中心となって執筆していました。

この頃掲載された作品は、主人公の少女が次々と襲い掛かるアクシデントや逆境に耐えながら、幸せを求めて健気に生きていくストーリーが主流で、特に、“母娘もの”が人気を得ていました。

## 1970年～1980年代

それまで定番だった“不幸もの”“ギャグ漫画”に代わって、ラブコメ作品が増えていき、青池保子や里中満智子、大和和紀、いがらしゆみこといった女性漫画家たちが大活躍しました。また、根強い人気のあった“恐怖もの”は模図かずおら男性漫画家から女性漫画家へと引き継がれました。1980年代になると、あさぎり夕らによる等身大のラブストーリーが主要連載作品になり、美内ずえのオカルト作品や、恋愛にメルヘン要素を取り入れた作品なども掲載されました。

## 1990年～2000年代

1990年代に入ると、変身・魔法・超能力といったファンタジックな要素を取り入れた作品が多く誕生しました。雑誌の方針を“恋愛”から“ファンタジー”へシフトした結果、少女たちが憧れる夢の世界が詰め込まれ、熱烈に支持されました。2000年代初頭も引き続きファンタジックな作品は人気でした。また、当時の国民的アイドルグループ・モーニング娘とコラボした漫画が人気を集め、メンバーのフィギュアなどがふるくや全員サービスになるなど話題となりました。

## 2010年代～現在

2015年、創刊60周年を記念して7月号（6月発売）から電子版の配信がスタートしました。2024年には、2000年代に人気を得たPEACH-PIT作「しゅごキャラ！」の続編「しゅごキャラ！ ジュエルジョーカー」の新連載がスタートしたことが話題になって9月号（8月発売）が入手困難な状況となり、期間限定で電子版が無料公開されました。

※もともとの発行部数が少ないことも原因のひとつとなっているようです（2024年7月～2024年9月1号あたりの平均印刷部数27,000部 日本雑誌協会調べ）